

□□ _____ □□

1. ニュース…文化賞2次選考会に18人中9人が新しい選考委員

□□ _____ □□

第21回日本自費出版文化賞の2次選考会が7月7日東京小伝馬町のニッケイビルにて開催されました。前日まで西日本の集中豪雨もあり開催が危ぶまれましたが、東京は晴れ間が出て暑い一日となりました。2次選考会には18人の選考委員が参加し、その内新しく選考委員になった方が半分の9人。参加者も遠方の方が多く、芦屋、神戸、大和郡山、豊中、大阪、堺、松本、いわき、仙台から駆けつけていただきました。選考も時間通り10時から17時30分に終わり、その後1時間の慰労懇親会を行いました。

新しく参加した方々からは、とても勉強になった、面白かったという声が多く聞かれ、来年もまたお会いしましょうと確認してお開きになりました。

□□ _____ □□

2. お知らせ…2018日本自費出版フェスティバル
ボランティアスタッフ募集

□□ _____ □□

2018日本自費出版フェスティバルは10月6日（土）に例年と同じ東京のアルカディア市ヶ谷にて開催されます。このフェスティバルのボランティアスタッフを募集することになりました。自費出版文化に理解や興味があり、当日の運営に協力してくれる方を募集しています。

希望者は9月15日（土）午後の説明会と当日の10月6日（土）に参加できることが条件です。
（スタッフジャンパーの貸与、昼食代千円支給。交通費なし。
懇親会無料となります）

皆さまお声がけよろしくお願いたします。

□□ _____ □□

3. 自費出版事情 … ～アドバイザー便り～No.7

□□ _____ □□

第2回自費出版アドバイザー 認定番号No.15
株式会社 文伸 / ことこと舎 宮川 和久

～ こんな本をつくりました～ 99歳のお客さま

99歳の女性から、何種類か本を作りたいというお話をいただきました。1つは、趣味で描いた花の絵をまとめた画集。1つは、若い頃に読んだ英文の物語をご自身で翻訳したもの（3冊分）。また、ぼろぼろになった原本を、手に取って読めるように修復して欲しい、というご依頼もありました。

打ち合わせでは、少女時代に戻ったかのように、物語の世界を語って
くださいました。

もう1つは、若くして亡くなった息子さんの写真アルバムを本の形に
複製して欲しい、というご依頼でした。

どちらも1冊から、多くて3冊もあれば十分とのことで、
オンデマンド印刷で作りましたが、これを「出版」というのかどうかは
ともかく、理由を尋ねると、バラバラになっている絵をまとめておきたい、
翻訳は手元に置いていつでも読みたい、アルバムは重くて気軽に見られない
ので軽い本にして欲しい、とのこと。
人に配るのではなく、自分のために作っておきたい。

最後は「棺桶と一緒にに入れて欲しい」と冗談っぽくおっしゃっていましたが、
楽しい思い出に囲まれて過ごしたい、という「終活」だったのかもしれませんが。

打ち合わせでお会いしている時はとてもお元気そうだったのですが、
最後に本を作ってから半年も経たないうちに、息子さんのところに旅立たれました。

何かまとめよう、自費出版で本を作ろうと思うお客様は、比較的年配の方が多く、
ご病気、闘病中の方も少なくありません。
ご縁で一緒に本を作ったそのようなお客様から、毎年賀状の返信やお便りなど
をいただくと、そのたびにちょっとホッとします。

もちろん、それが次の本の依頼だともっと嬉しいのですが。

□□ _____ □□

☆ 知つとこ 松本 ☆ その3

□□ _____ □□

先月予告させていただきましたが、松本城の内部についてです。

漆黒の「烏城」は現存12天守の中で唯一の平城であり、その構造は
5重（層）6階の大天守と3重4階の小天守、3種類の櫓を付随させた
複合連結式のお城です。
大天守には石落や矢狭間・鉄砲狭間を備えていて、戦のための城で
あることがわかります。
黒と白のコントラストの中にただ一か所朱塗りの月見櫓が雅な姿を
見せていますが、これは江戸時代に入ってから徳川家光が長野の善光寺を
参拝する途中で松本に立ち寄る（実際は参拝中止でしたが）という
意向を受けて作られたものです。

さてお城の内部ですが、1階はたくさんの柱が並び、もとは壁があり
食糧や武器・弾薬などの倉庫だったと考えられています。
2階は現在火縄銃の展示や鉄砲に関する資料が展示されています。
3階は窓が無く、またこの階は外からは見えないため戦の際には
武士が集まるのに最も安全な場所でした。
4階は天井が高く明るい広々とした部屋で、いざというときには城主の
御座所となりました。
5階も天井が高く大広間があり、重臣たちの会議の場と考えられています。
最上階の6階は四方の様子がよく見える望楼となっています。

松本城の内部を見学された方はご存知かと思いますが、天守の階段の
急勾配は有名です。
これは「敵が攻めてきても昇りにくいため」ではなく、当時の基準は

柱と柱の間が6尺5寸（1.97m）だったので、天井が高い階は必然的に階段の角度が急になっているのです。
一番天井が高い4階の階段の角度は61度にもなります（しかも一段の高さが50cm位）。

松本城内部を見学する際、タイトスカート・ミニスカートでは昇降が非常に困難になりますので、女性の皆さんは服装にご注意下さいませ。

★あとがき

アドバイザー便りのお話は、「自費出版」の原点に戻れるような温かいお話でしたね。お客さまに寄り添えるのもこのお仕事の醍醐味です。

そして松本城、すっかり行った気分になってきました！

さてお話は7月のことに戻りますが、私の住む名古屋が連日38℃、39℃と「命に関わる危険な暑さ」が続く1週間、実は私、入院生活をしていました。といっても病気でもケガでもなく、皮膚腫瘍という悪性っぽいのですが、そうではなくイボのようなものを切除手術のため入院してました。

さすがに術後の一日は不快でしたが、あとは24時間エアコン完備、三食昼寝付きは羨ましがられたりしました。病院食を毎食ほぼ完食して分かったことは、日ごろいかに無駄なものを食べていたかということです。

間もなく立秋ですが、まだまだ暑い日は続きます。皆さん、体に良いものをしっかり食べて乗り切ってくださいね。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。